



特自検



研修・教育



頒布品



機関誌(災害事例)



協会案内



支部

災害事例

機関誌バックナンバ 機関誌 過去の連載講座より

▶イラスト災害事
例

▶機関誌バックナン
バー

▶そこが知りたい！「実践 働き方改革 労務管理講座」

(全7回)

車両系荷役運搬
機械

▶実践リスクアセスメント講座 (全6回)

▶実践メンタルヘルス講座 (全6回)

車両系建設機械

▶品質・安全講座 ヒューマンファクターシリーズ (全10
回)

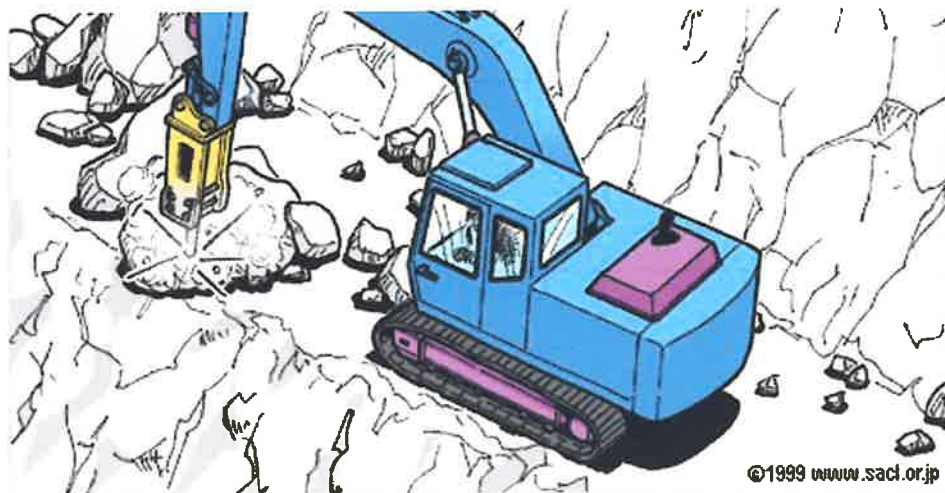
高所作業車

▶負傷災害事例

▶ヒヤリ・ハット
事例

▶危険予知訓練

▶災害統計



©1999 www.sacl.or.jp

絞り込み

起因物を選択 ▼

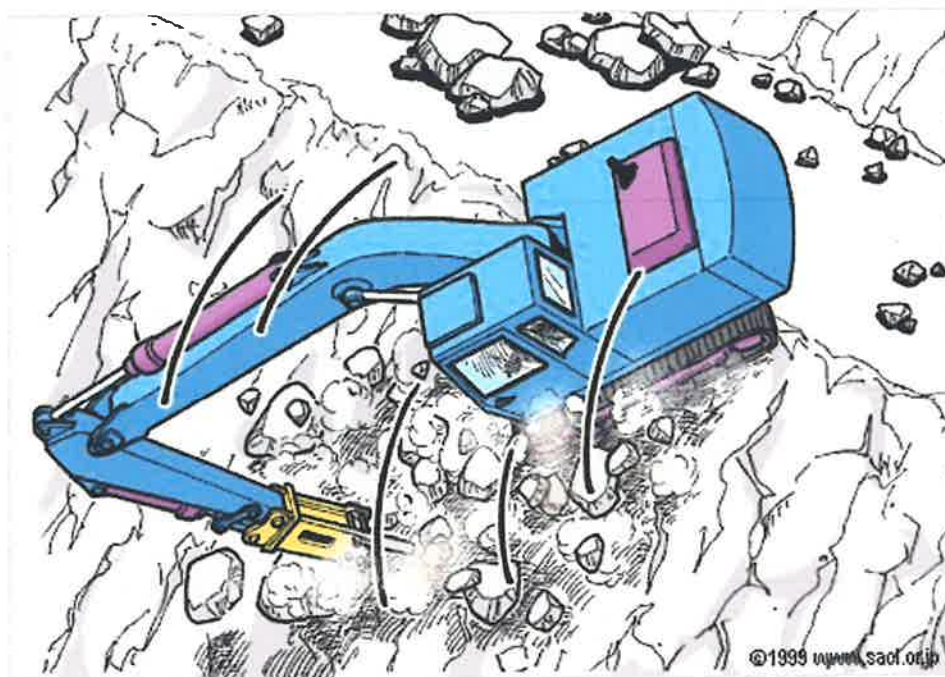
事故の型を選択 ▼

キーワードを入力

検索

どうすれば防げるでしょうか…（こんな災害が発生しました）

運転者は小割作業の反動で、法肩から重機とともに45度から50度の斜面を約150m転落しました。



災害発生防止のポイント。

1. 路肩に振動による反動が伝わることが無いよう、水平段の幅に見合った機種を選定する。
2. 作業開始前に振動による崩壊も含め、路肩の地盤強度を確認しておくこと。
3. 誘導員を配置すること。

[前の事例へ【建0084】](#)

[次の事例へ【建0086】](#)

[特自検](#)

[研修・教育](#)

[頒布品](#)

[災害事例](#)

[協会案内](#)

[支部](#)



公益
社団法人

建設荷役車両安全技術協会

SAFETY ASSOCIATION OF CONSTRUCTION AND LOADING VEHICLES





特自検



研修・教育



頒布品



機関誌(災害事例)



協会案内



支部

災害事例

機関誌バックナンバ 機関誌 過去の連載講座より

—

▶イラスト災害事例

▶そこが知りたい！「実践 働き方改革 労務管理講座」

▶機関誌バックナンバ

(全7回)

バー

車両系荷役運搬
機械

▶実践リスクアセスメント講座 (全6回)

▶実践メンタルヘルス講座 (全6回)

車両系建設機械

▶品質・安全講座 ヒューマンファクターシリーズ (全10

高所作業車

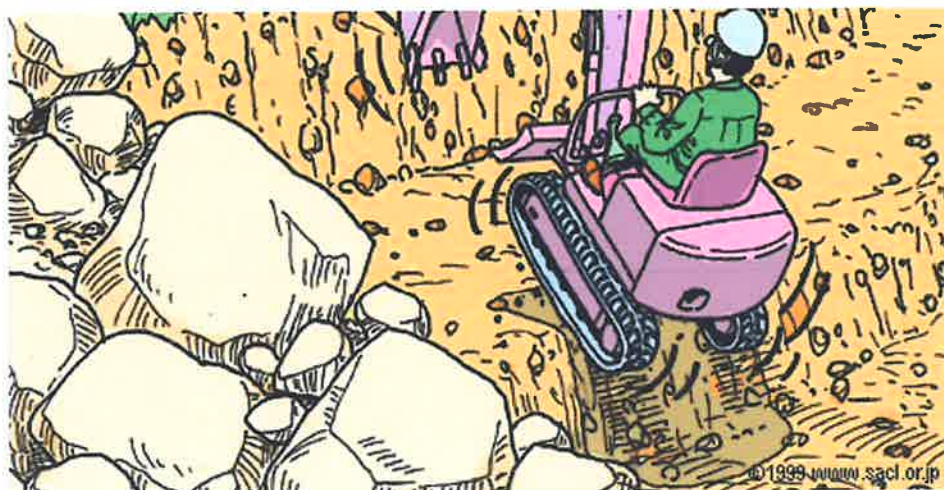
回)

▶負傷災害事例

▶ヒヤリ・ハット
事例

▶危険予知訓練

▶災害統計



絞り込み

起因物を選択 ▼

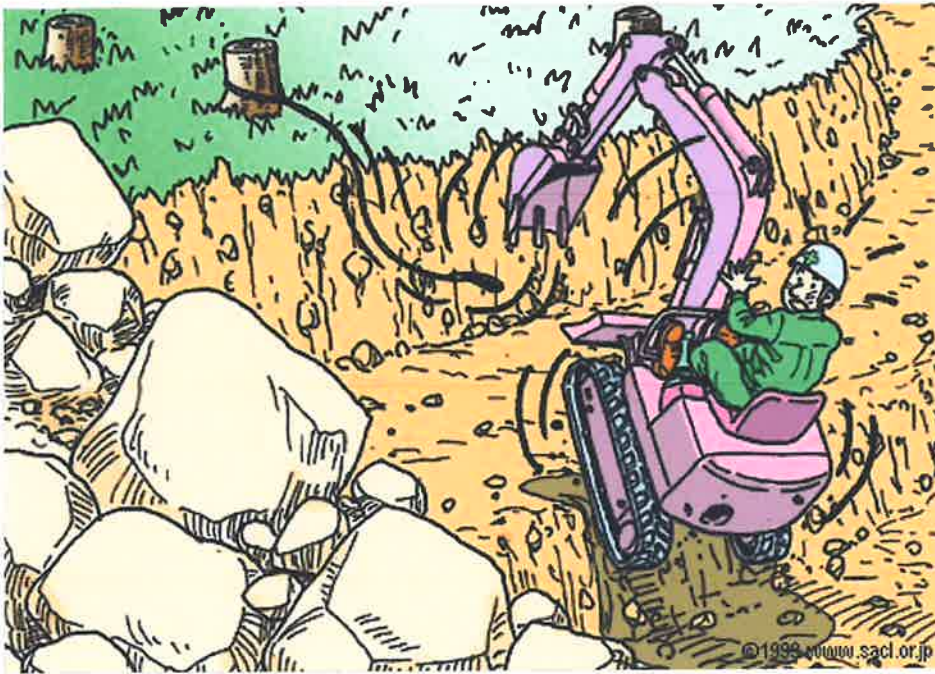
事故の型を選択 ▼

キーワードを入力

検索

どうすれば防げるでしょうか…（こんな災害が発生しました）

バケットの爪からワイヤーロープが外れ、機体が転落し運転者が下敷きになりました。



災害発生防止のポイント。

1. 登坂路を作りながら上部に移動する。
2. 機体重量に耐えるウインチを利用して牽引する。もしくはレッカーでつり上げる。
3. やむを得ず切り株を利用しなければならないときはアンカーとして、強度が十分耐えうるかを確認する。
4. バケットの爪は滑りやすいので支点として利用せず、強度が十分な機体部分を一方の支点とする。

[前の事例へ【建0063】](#)

[次の事例へ【建0065】](#)



特自検



研修・教育



頒布品



機関誌(災害事例)



協会案内



支部

ホーム > [イラスト災害事例](#) > 建0004

災害事例

建0004

起因物：車両系建設機械＞整地・運搬・積込み
機械

事故の型：墜落、転落

どんな危険が潜んでいるのでしょうか…（この状況で予知される災害は）

雨の翌日のダム工事でブルドーザーが路肩付近で埋め戻し作業をしています。さて、この状況からどんな危険が予知されるのでしょうか？



災害事例

[イラスト災害事例](#)

[車両系荷役運搬機械](#)

[車両系建設機械](#)

[高所作業車](#)

[負傷災害事例](#)

[ヒヤリ・ハット事例](#)

[危険予知訓練](#)

[災害統計](#)

[イラスト災害事例の
絞り込み](#)

起因物を選択 ▼

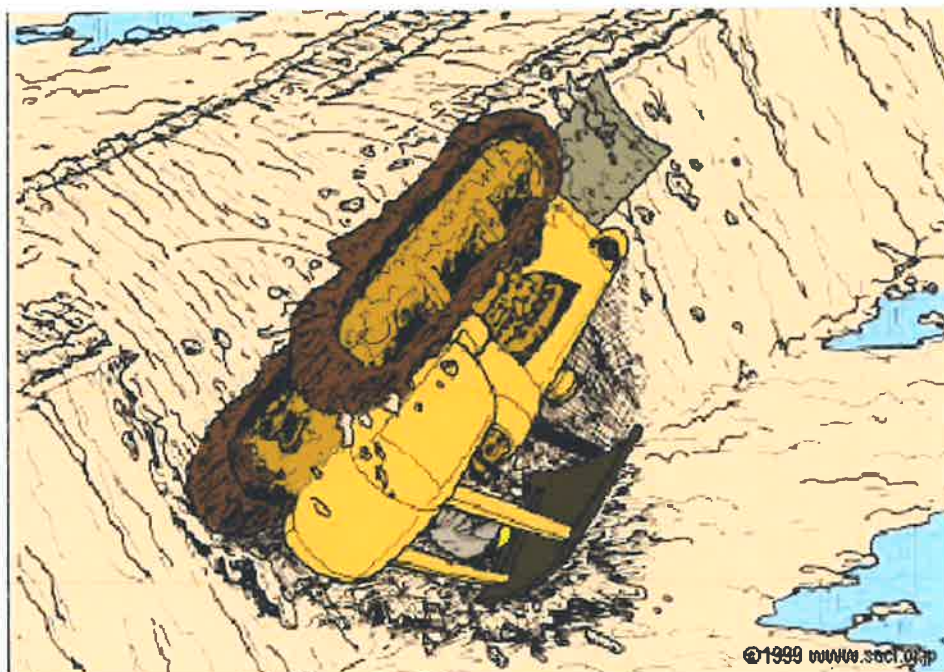
事故の型を選択 ▼

キーワードを入力

検索

どうすれば防げるでしょうか…（こんな災害が発生しました）

路肩がくずれてブルドーザーが転落し、運転者がブルドーザーの下敷きになって死亡しました。



災害発生防止のポイント。

1. 作業前に地盤の状況を確認する。
2. 路肩表示をする。
3. 路肩に対し、直角に押し土する。

[前の事例へ【建0003】](#)

[次の事例へ【建0005】](#)

[特自検](#)

[研修・教育](#)

[頒布品](#)

[災害事例](#)

[協会案内](#)

[支部](#)



公益
社団法人

建設荷役車両安全技術協会
SAFETY ASSOCIATION OF CONSTRUCTION AND LOADING VEHICLES



令和3年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械事故）

【事故概要】

砂防堰堤管理道路工事にて、被災者は、当日予定作業を完了後、予定していない法面上部へ向かう作業道の掘削作業に着手し、掘削作業を進めていたが、被災者の重機が、作業道上端でスリップしてバランスを崩し法面下部へ転落した。そのため、被災者は重機の下敷となった。

【事故原因】

- ・現場代理人は、被災者が法面掘削工事に慣れていることから、朝の作業指示のみで作業を任せたままま現場作業の確認を怠った。
- ・被災者は、当日作業予定していない、法面上部へ向かう作業道の掘削作業を行った。
- ・上記作業について、作業計画書が作成されておらず、又地山掘削作業主任者の配置もないまま作業を行っていた。
- ・現場の地山は、連日の降雨により滑りやすくなっており、且つ、使用機械の登坂能力を超える傾斜（30度＜31度）があるにもかかわらず、重機の滑り止めを別の作業員が用意している間も、危険な状態で掘削作業を進めていた。
- ・被災者は、転落の恐れのある掘削作業であったにもかかわらず、シートベルトを着用していなかった。

事故現場状況写真



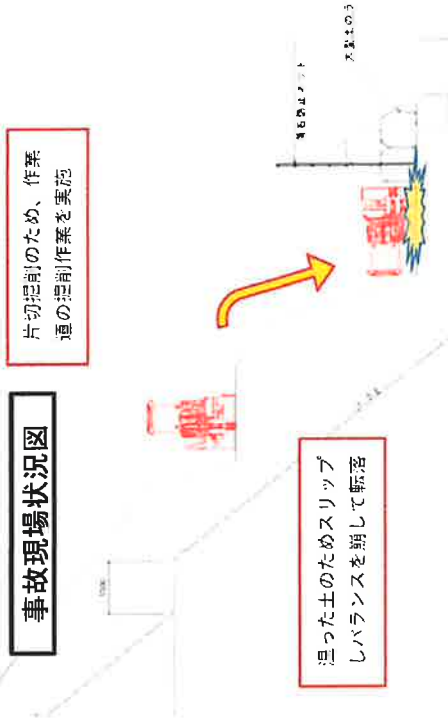
【分類】土工、BH掘削

【被害状況】業者人身 男 67歳 外傷性大動脈解離、右多発肋骨骨折、血胸、肺挫傷、頭蓋底骨折等(3ヶ月の加療)

【改善対策】

- ・元方事業者は、関係請負人及び関係請負人の労働者が、当該仕事に関し、安衛法及び安衛規則等に違反しないよう必要な指導を行うとともに、法令等に違反していると認められるときは、是正のために必要な指示を行うことを徹底する。（安衛法第29条参照）
- ・バックホウ等車両系建設機械作業にあたっては、作業場所について地形、地質の状態を調査し、その結果に基づき、作業計画書の策定するとともに、それを書面で作業従事者に周知し、計画どおりの作業を行わせること。（安衛法第20条、29条、安衛規則第154、155条参照）
- ・地山掘削作業の実施には、地山掘削作業主任者を配置（参照：安衛規則第359条）したうえで、作業方法や、作業者の配置を決定し、安全に配慮した施工、作業進行状況等の監視を徹底すること。
- ・傾斜地における作業道設置にあたっては、作業幅は、機械幅の1.5倍を確保し、勾配も重機能力以上の勾配とならない（安衛規則163条参照）ように建設機械施工安全マニュアルを遵守することを徹底し、坂路路肩部に転落防止用の目印を設置する。
- ・路肩、傾斜地等であって、車両系建設機械の転倒又は転落の危険が生じる恐れがある場所においては、誘導者を配置し、車両系建設機械の誘導をさせる。（参照：安衛法第20条、安衛規則第157条）また、運転者にシートベルトの着用を徹底する。

事故現場状況図



片切掘削のため、作業道の掘削作業を実施

湿った土のためスリップしバランスを崩して転落

令和3年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械事故）

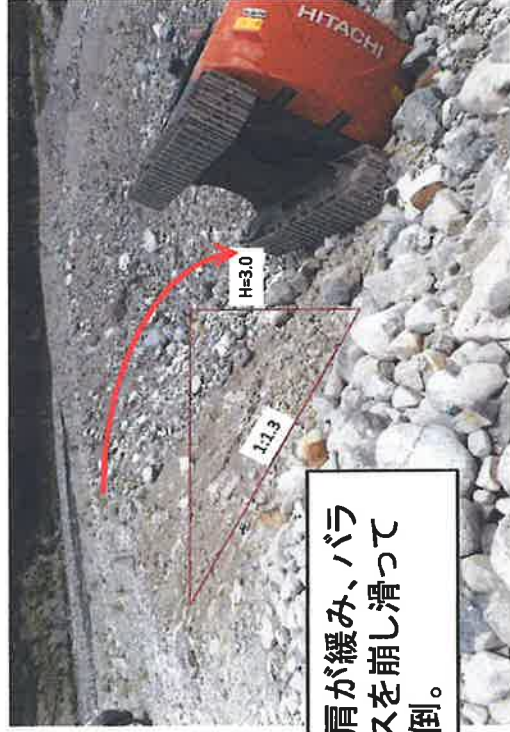
【事故概要】

河川工事にて、翌日の作業準備のため、隣接の別工事現場から当該工事現場へバックホウを自走で回送していたところ、現場内の通路法肩から下へバックホウが転倒したものの。

【事故原因】

- ・事故当日の下請のバックホウ回送について、連絡体制が不十分で元請けが把握できていなかったこと。
- ・上記のため、当該現場作業に係るKY等が未実施で、バックホウのオペレータは場内の状況を十分把握しないまま、回送を行ったこと。
- ・場内の通路に法肩を明示しておらず、誤ってバックホウが法肩に寄り過ぎたこと。

事故現場状況



法肩が緩み、パランスを崩し滑って転倒。

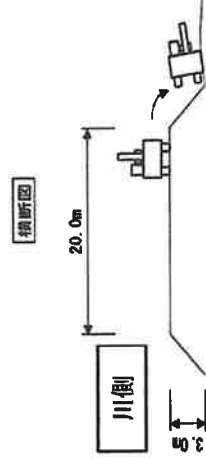
【改善対策】

- ・元方事業者は、事故防止のため、関係請負人との間における連絡及び調整を行うことを徹底する。（安衛法第30条、安衛規則第636条参照）
- ・元方事業者は、土砂等の崩壊、路肩の崩壊が発生する恐れのある当該現場へ入場する関係請負人に対して、予め施工打合せを行うと共に、KY活動の実施を徹底させる。（安衛法第29条の2参照）
- ・事業者は、車両系建設機械を用いて作業を行うときは運行経路を定め、同運行経路について路肩を明示し、路肩崩壊、経路逸脱等による転倒事故の防止を徹底する。（安衛規則第155、157条参照）

事故当時



改善状況



【分類】準備工、BH移動

【被害状況】業者物損 バックホウ07m3の一部損傷